

当社の電気集じんセルは浮遊ウイルスを30分後に99.98%減少させました。*

「2段荷電方式電気集じんセル」は当社空気清浄機「スカイフレッシュ」シリーズに採用されています。

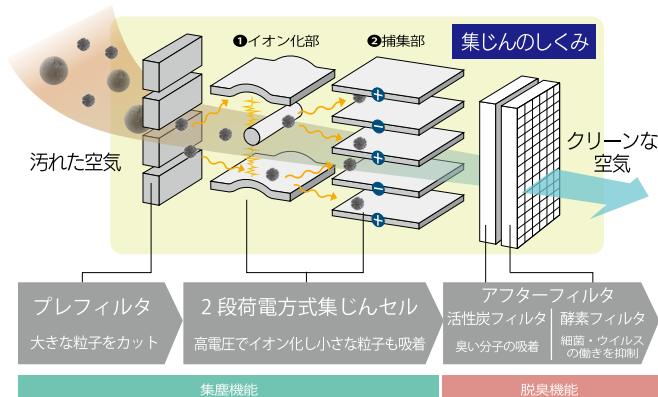
当社独自開発の高性能「2段荷電方式電気集じんセル」ユニット



今回の実験で使用された「スカイフレッシュ 卓上・壁掛形空気清浄機」

スカイフレッシュシリーズは高い集じん効果と幅広いラインナップで、除埃、除煙、ウイルス抑制等の多目的な空気清浄機としてご採用いただいております。

0.01 μmの粒子も逃さない電気集じんセルと2種のフィルタから成る高性能エアクリーナ。



機器内部ではコロナ放電によりオゾンが発生しており、ウイルスの抑制に有効といわれております。室内の空気が何回も空気清浄機の中を通過することにより、ウイルスが減少していく仕組みです。
*エアコン接合型にはプレ・アフターフィルタは付きません。

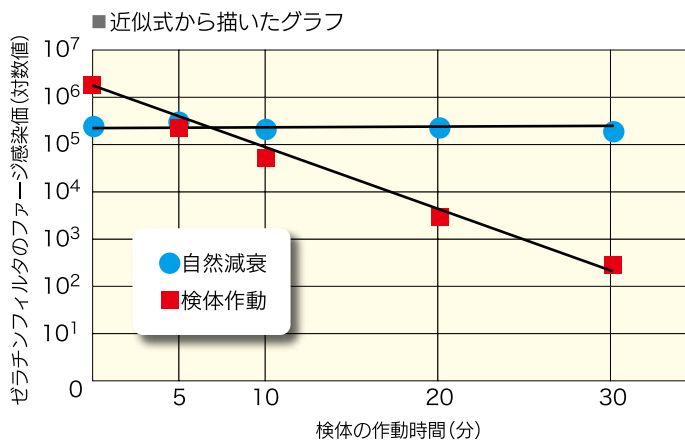
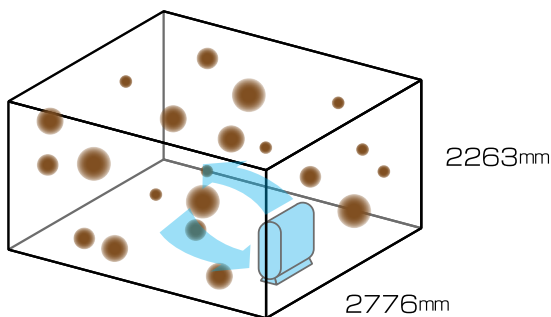
*（一社）日本電機工業会が規定する「浮遊ウイルスに対する除去性能評価試験」に基づき、（一財）日本食品分析センターに委託した試験の評価によるものです。

「浮遊ウイルスに対する除去性能評価試験」の概要と結果

依頼者：（株）J.G. コーポレーション
試験者：（一財）日本食品分析センター

■試験方法

日本電機工業会規格JEM1467に基づく方法にて実施。約25m³（6畳相当）の空間に1種類のウイルスを噴霧し、電気集じんセル内蔵の当社製空気清浄機（FJ104B100）を1台設置運転し、時間経過による浮遊ウイルス量減少の計測を行った。



○試験機関：（一財）日本食品分析センター ○試験対象：浮遊した1種類のウイルス
○試験番号：第21087374001-0101号 ○試験結果：約30分で99.98%ウイルス抑制

ONE POINT アドバイス

99%

DOP法で99%の集じん効率 (LOW運転時)

DOP法で50%の集じん効率は比色法で80%、重量法で99%にあたります。弊社の製品はすべて社団法人・日本空気清浄協会のDOP法試験装置で試験を受け性能が立証されています。

集じん効率測定方法の違い

1—重量法 (簡単な測定法)

1立方メートルの空気中の10ミクロン（1ミクロンは1ミリの1/1000）以上のホコリ、煙、バイキン等のじんあいの重量（オモサ）を、集じん前と集じん後を計り、その差で何%取れたと称する測定法。

2—比色法 (2番目に簡単な方法)

集じん前の大気（空気）中の粉じんと集じん後の空気を光学的に測定し、その光の透過率を測定する方法。

3—DOP法 [計数法] (1番きびしい測定方法)

1立法フィート中の粉じんを集じん前と集じん後で、その粉じんの数を測定する方法で99%の集じん効率とは、100個の0.8ミクロン以上のじんあい99個取れるということです。



集じんセル (スーパーサイレントセル)

重量法 (%)	比色法 (%)	DOP法 (%)
99	80~85	50~60
96	30~35	20~30
76	8~12	2~5

(NASA, Contamination Control Hand Bookより)